

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シートの見方

※「作業シート(切り分け版)」は、文字の読みやすさ等の観点から「作業シート(表整理版)」の内容を切り分けて提示しているものです。
 そのため、「作業シートの見方」は「作業シート(表整理版)」を基にした説明となっておりますが、含まれている要素(作業シートの見方)に変わりはありません。

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

<p>保育所保育指針における「ねらい」</p> <p>ア. 心身の健康に関する領域「健康」</p> <p>① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p>		<p>保育所保育指針の5領域（3つの視点）の記載に照らして、 保育現場の現状の課題等を整理 しています。</p>	<p>保育現場の現状の整理を踏まえて、 課題等の改善に必要な要素 を書きだしています。</p>	<p>左記を踏まえて、 具体的にどのような検討を行い、 社会に発信していく必要があるのか</p>
<p>保育所保育指針における「保育の内容」および「内容の取扱い」</p>	<p>保育所保育指針と照らした現状の整理</p> <p>A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等</p> <p>B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等</p>		<p>A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)</p>	<p>今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要</p>
<p>内容</p> <p>① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。 ② 一人一人の発達に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。 ③ 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。 ④ 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。 ⑤ おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。</p>	<p>① 「A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等」について ⇒ 少子高齢化の急速な進展による人口減少や核家族化、就業形態の変化、地域コミュニティの機能低下等、コロナ禍以前からの課題等により、保育にどのような影響が生じているかを整理しています。</p> <p>② ③ ④ ⑤</p>	<p>① 「B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等」について ⇒ コロナ禍において、コロナ禍以前の保育の継続が困難になるなかで、保育者の創意工夫等により実施が可能となった保育内容や、新たな課題について整理しています。 また、コロナ禍の対応等を踏まえ、今後も継続や検討が必要な事項も含んでいます。</p> <p>② ③ ④ ⑤</p>	<p>乳児保育／ア</p>	
<p>内容の取扱い</p> <p>① 心と体の健康は、相互に密接な関連がある者であることを踏まえ、温かい触れ合いの中で心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発達に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。 ② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、離乳食が完了期へと徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>保育所保育指針の保育の内容・内容の取扱いごとに記載しています。</p>			<p>A・Bの整理を踏まえて、 保育所保育指針の5領域（3つの視点）ごとに記載しています。</p>
	<p>例</p> <p>保育所保育指針：乳児保育のねらい「ア」の保育の内容「①」に対する「A」の整理例 ⇒ 就労形態が多様化され、延長保育、休日、病児保育など利用する子どもは、長時間保育、生活する場所が変わることもあり、情緒の安定が難しい。 など</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針：乳児保育のねらい「ア」の保育の内容「①」に対する「B」の整理例 ⇒ 感染を防ぐため、向かい合わせに抱かない、至近距離で言葉がけしないように気を配った。 など</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針：乳児保育のねらい「ア」に関して必要と考えられる要素例 ⇒ 個別の生活リズムに十分に対応できる、食べる、遊ぶ、寝る空間の確保と人員配置への補助。 など</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針：乳児保育のねらい「ア」に関して改善に向けて検討が必要だと考えられる視点の例 ⇒ i：配置基準の改定 保育所保育指針の改定は概ね10年に1度であるものの、社会の変化の状況も踏まえながら改訂が行われる。一方で、人員配置基準の見直しは行われていないために、基準が社会の変化に追いついていない状況がある。 など</p>